

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 太陽の家		
所在地	山口県大島郡周防大島町久賀5377 - 1		
電話番号	0820-72-1011	事業所番号	3577100302
法人名	社会福祉法人 慈光福祉会		

訪問調査日	平成 21 年 8 月 11 日	評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 10,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	1日 1,000円			
その他の費用	月額 10,000 円			
	内訳 光熱水費			

### (4) 利用者の概要 (7月27日現在)

利用者数	9 名		男性	名	女性	9 名
	要介護1	3	要介護4		2	
	要介護2	0	要介護5			
	要介護3	4	要支援2			
年齢	平均 86.9 歳	最低 77 歳	最高 97 歳			

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 山中クリニック 歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

事業所は自然に恵まれた環境にあり、穏やかな雰囲気の中で、日々の生活を共にしながら、職員は利用者を「人生の先輩」として寄り添った支援をし、利用者との間に心とむ関係が築かれています。リビングの大きく丸い食卓を囲んで昔話やゲーム、手芸、野菜の下ごしらえをしたり、食事も全員の顔を見ながら会話はみ、笑い声もあり、楽しいときを過ごしておられます。職員の経験年数に応じて段階的に研修が受けられるよう、また、資格取得ができるよう支援されています。

### (特徴的な取組等)

医療連携体制があり、協力医療機関の内科、整形外科の往診が週1回ずつあり、利用者それぞれのかかっている眼科、歯科、耳鼻科への受診時の付き添い、送迎など適切な医療が受けられるよう支援されています。母体法人の病院、特別養護老人ホームが隣接しており、重度化した場合の入院等の対応ができたり、緊急時の連携体制もあり、利用者と家族の安心に繋がっています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議のメンバーを検討され、PTAの役員の方を迎えられたり、感染症予防の職員の周知徹底など、できることから改善に取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解し、全職員で項目を分担して実施され、ホーム長がまとめておられます。自己評価することが取り組みについて考え、話し合う良い機会になったと受け止めておられます。

### (運営推進会議の取組状況)

民生委員、地域包括支援センター職員、元老人福祉施設長(併設)、在宅介護支援事業所長、家族、PTA役員などのメンバーで2ヶ月に1回開催され、事業所の行事や現状、外部評価結果等について報告し、防災について意見交換をするなどサービスに活かしておられます。

### (家族との連携状況)

毎月、請求書と金銭管理のコピーを送付し、年2回発行の事業所だよりで利用者の暮らしぶりを伝えておられます。面会時や電話等で状況や健康状態を伝え意見や要望などを聞かれています。家族会を年1回開催されるなど、家族との連携に努めておられます。

### (地域との連携状況)

敬老会への参加や選挙の期日前投票に出かけ、出会った人と会話したり、法人主催の納涼祭に参加された地域の人と交流しておられます。近隣の人が野菜をもって来られた時など、中に入ってもらい、利用者との交流ができるよう支援しておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「地域との和を大切によりよい関係、開放した施設づくりに努める」という事業所独自の理念をつくっている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームに理念を掲示し、共有して、地域の人々が訪れやすい施設づくりについて全職員で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>敬老会への参加や選挙の期日前投票に出かけ、出会った人と話したり、法人主催の納涼会に参加された地域の人々と交流している。近隣の人が野菜を持って来てくれた時など、利用者と交流してもらおうようにしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は、全職員で項目を分担して実施し、ホーム長がまとめている。前回の評価結果については、PTAの役員の人を運営推進会議の委員に迎えたり、感染症予防の職員の周知徹底など、できることから取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、地域包括支援センター職員、元老人福祉施設長(併設)、在宅介護支援事業所所長、家族、PTA役員等のメンバーで、2ヶ月に1回開催し、事業所の行事や現状、外部評価結果について報告し、防災について意見交換するなど、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町の介護保険課には相談したり、助言を受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、請求書と金銭管理のコピーを送付し、年2回発行の事業所だよりで利用者の暮らしぶりを伝えている。面会時や電話等で状況や健康状態について報告している。家族会を年1回行ない食事会に5家族が参加している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会や面会時、運営推進会議の場等で、家族から意見や要望を聞いているが、不満や苦情は出ていない。相談や苦情を受け付ける窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員8名を確保し、職員の急な休みの時には勤務交代で対応している。利用者の身体的な介護が増え、起床時や入浴時、あわただしい時間帯などに十分な職員の確保があるとはいえない。	・起床時等の必要な時間帯に柔軟な対応ができる職員の確保の検討
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は必要最小限に抑える努力をしている。新任職員は1ヶ月～2ヶ月(介護経験に合わせて)の重複勤務(夜勤5～6回)をすることで利用者のダメージを防ぐように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験年数に応じて、段階的に外部研修の受講の機会を勤務の一環として提供している。併設の特別養護老人ホームの苑内研修に年2回参加したり、事業所内での研修も行ない、働きながら学べるよう取り組んでいる。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、岩柳地区のブロック研修会(年4回)、大島、柳井の交流会等に管理者が参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入院先や施設を訪問し、本人や家族から話を聞いて、家族と相談しながら、入居後徐々に馴染めるよう努めている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	職員は利用者と日々の生活を共にしながら、昔の話を聞いたりゲームと一緒に楽しんだり、お大師様のことや、いろんな習慣を教わったりしながら、「人生の先輩」として接しており、本人から学んだり、支え合う関係を築いている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	センター方式のシートを利用し、これまでの暮らしぶりを把握したり、日常ゆっくり話している中で、何気ない会話や行動、表情の中から、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞きとり本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	毎月のサービス担当者会議で、担当者が把握している利用者の意向等について、職員も意見を出し合い、また、事前に聞いている主治医の意見を参考に検討し、介護計画を作成している。家族にも介護計画を見てもらい、希望等の記入をしてもらっている。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	月1回、会議で検討し、計画の見直しをしている。新たな介護計画の作成は年1回しているが、状態に変化が生じた場合は、その都度、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	医療連携体制加算を算定している。美容院への付き添いと送迎、受診の送迎、付き添い、買い物など外出の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関が主治医となっており、内科、整形外科の往診が週2回あり、眼科、歯科、耳鼻科の受診の支援や、医療連携体制による職員として勤務している看護師が日常の状態を把握して主治医との連携を図っている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化対応に関する指針が有り、入居時に家族に説明し、同意を得ている。終末期が予想される場合は、法人の病院等への入院が多くなっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮している。記録等の個人情報の取り扱いには十分注意して行なっている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ね決まっているが、日々、その時々で利用者に合わせて支援をし、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の朝食と火曜・木曜の昼食は、利用者から希望を聞いて献立を作り、事業所で調理している。家族や近所の人、職員から旬の野菜が届き、野菜の下ごしらえ、ごぼうのささがきなど利用者も一緒に行ない、後片付けもしている。大きなひとつの丸い食卓テーブルを囲んだ食事は、全員の顔が見え、会話を楽しまれ、和やかな風景であった。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日午後に行ない、一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、気分転換を図ったり、声かけのタイミングや職員を変えるなど工夫して支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物、読書、テレビドラマ視聴、カラオケ、童謡や懐メロ・季節の歌を歌う、しりとり、風船バレー、魚釣りゲーム、散歩、野菜の下ごしらえなど、たくさんの場面づくりをし、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など、戸外に出かけられるよう支援している。四季に応じた花見、外食、ドライブなどの支援もしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	併設の特別養護老人ホームの苑内研修(年2回)で、身体拘束をしないケアについて学び、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事例(転倒、転落等)記録、ヒヤリはっと報告書を作成し、一人ひとりの状態について検討して介護計画に反映し、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時は看護師や協力医の協力が得られ、すぐに対応ができているため、全職員での応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・全職員に対しての応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施し、併設施設からの協力が得られるようになっているが、地域への働きかけは行っていない。	・地域の協力が得られる働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書をファイルし、薬の情報を把握し、職員は理解して、一人ひとりの状態に合わせた服薬支援をしている。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄、除菌、保管の支援をしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、水分摂取量は必要な人のみチェックしている。栄養士のつくった献立であり、カロリーや栄養バランスに配慮した食事を提供している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、感染症予防の研修を受け、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングに大きな丸い食卓があり、利用者と職員が顔を見ながら食事をしたり、野菜の下ごしらえや手芸、ゲーム、会話を楽しんでいる。花壇で咲いていたコリの花を生けたり、差し入れの旬の野菜が置かれ、台所からの調理の音や匂いが伝わり、季節感や生活感など五感に働きかけるような刺激を採り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、洗面台、テレビ、文机が備え付けてある。写真やカレンダー、花が飾られ、生活用品や収納家具が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 太陽の家
所在地	山口県大島郡周防大島町大字入賀 5322-1
電話番号	0820-72-2888
開設年月日	平成 11 年 9 月 1 日

### 【実施ユニットの概要】 (7月28日現在)

ユニットの名称	グループホーム 太陽の家					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
	要介護 1	3 名		要介護 4	2 名	
	要介護 2	1 名		要介護 5	0	
	要介護 3	3 名		要支援 2	0	
年齢構成	平均	87 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	項目を職員で分担し、総合的にホーム長がまとめ、施設長が目を通し、意見の違う所は話し合いをして確定している。
評価確定日	平成 21 年 7 月 24 日

### 【サービスの特徴】

温暖で海も山も近くにあり、自然環境に恵られている。気候の良い時には、ホーム周辺のミカンが成長していく様子やきれいな花を見ながら散歩をしている。

特養との併設のメリットを活かし、行事等については共同参加が可能である。

室内も職員も明るく、周りには火田や花壇があり、花のある生活が楽しめる。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域との和を大切によりよい関係、開放した施設づくりに努める」という理念の実践に向けて努力している。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を実践する為、地域の人たちが訪れやすい施設づくりに全職員が話し合っている。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	ホーム内に掲示してあり、確認できる。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	常にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や近隣の方々の面会もあり、職員も入所者と共に歓迎しているが、理念は説明していない。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	近隣の方たちが立ち寄られた時、職員も忙しそうに振る舞いは避け、ゆっくりしてもらっている。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会、老人会等の地域活動には参加していない。	○ 重度化して出向いて行く事が難しくなっているが、行事等には参加したい。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の暮らしについて話し合っていない。	○ 現在は重度化した入所者の事で余裕がないが、何かきっかけがあれば、役に立ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価の意義は理解しており、改善に向けて努力をしている。	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議で報告や話し合いを行い、そこでの意見で、できることはサービスに活かしている。	
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町と共にサービスの質の向上に取り組んでない。	○ 市町の担当者ともう少し、行き来する機会をつくりたい。
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護に関する制度について学ぶ機会はあるが、実際には活用する機会がない。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内では、年2回苑内研修を行っており、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っている。全職員が防止に努めている。	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を聞くようにし、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談や苦情の窓口及び第三者委員を明示し、苦情解決の手続きを明確にしている。	
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年2回ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりを報告し、金銭管理については毎月報告している。家族の方々に来られたときには、状況を報告しているが、定期的な報告はしていない。	○ ホーム便りを出すとき、一緒に近況報告をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	○	忙しい時間帯の職員の確保
21 (10)	<p>○<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
22 (11)	<p>○<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	地域の同業者との交流の機会をもう少し増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○	ショート入所などで体験してもらい、馴染んでもらう。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42 (17)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○ <u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○	ボランティアの協力をもう少し得たい。
46	○ <u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		
47	○ <u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
56 (21)	○ <b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者のプライバシーを損ねるような対応はしないように努めている。記録の個人情報の取り扱いには十分な注意をしている。	
57	○ <b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の伝えたい事や希望を聴取し、本人が納得しながら暮らせるように支援している。	
58	○ <b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食器洗いなど個々にあったできる力を大切にしている。	
59 (22)	○ <b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	1日の基本的な流れは決めているが一人一人のペースを大切に希望にそえるよう支援している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	○ <b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	行きつけの美容院を利用する方もいるが、ほとんどがボランティアの美容師に散髪してもらっている。	
61 (23)	○ <b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	火、木の昼食作りは、何を食べたいか聞き献立に取り入れたりしている。準備や食事の後片付けは利用者と共に行っている。	
62	○ <b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	10時のおやつには、好みの飲み物を選んでもらい、楽しめるように支援している。	
63	○ <b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をして失敗やパッドの使用を減らして、気持ちよく排泄できるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p><b>○安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
66 (25)	<p><b>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	○	利用者が気晴らしができる工夫をしたい。
67	<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p><b>○日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	○	時間や職員の人数に余裕のある時はできるだけ希望にそえるようにしたい。
69	<p><b>○普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><b>○家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><b>○家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p> <p>家族会や納涼祭に家族の参加を呼びかけている。</p>		<p>行事予定を家族に知らせることにより普段の行事にも家族が参加できるように呼びかけていきたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束について年2回の苑内研修を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>玄関にセンサーを設置して、日中は施錠しないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p> <p>転倒防止のため、居室にセンサーを設置している方もあり、常に利用者の所在や様子を把握して、安全に配慮するよう心がけている。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p> <p>危険を防ぐ取り組みをしている。一人一人の状態に応じ、使用時は見守りをしている。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p> <p>丸テーブルで必ず職員が見守りながら食事し、服薬は手渡しして見守っている。</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p> <p>定期的に応急手当や初期対応の訓練はおこなっていない。</p>		<p>今年中に1度は救急にたいする講習会を行いたい。</p>
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p> <p>転倒記録、ヒヤリハット報告書をつくり、発生防止の改善などを講じている。</p>		<p>ヒヤリハット報告書をまとめ、事故防止につなげていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	昼間は隣接施設の支援、避難訓練などで対応できると思うが、夜間に不安がある。地域の人々の協力など働きかけたい。		地域の方々の協力を働きかけたい。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時に状態を説明し、急を要する時は電話にて説明している。		
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインのチェックや観察により異常を早期に発見するよう心がけている。異常がある場合には医療機関へ連絡し受診し、連絡事項などを全職員に伝達している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	目的や副作用についてはすべて理解できてはいないが、必要な情報や異常があれば、すぐに医師に報告している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ゆる体操や水分摂取などにより、薬だけに頼らないよう努力している。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	義歯でない入居者(3名)の食後の歯みがきのケア、義歯の洗浄、除菌を行っている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量のチェックにより個々に応じた対応に心がけている。水分摂取量はチェックしていない。		水分摂取量もチェック表において把握していきたい。
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルが作成してあり、相談、指導を受けながら実行している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器など入居者のみが洗うのではなくて、職員も一緒に洗い食材も日付などを大きく表示し衛生管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>			
90	<b>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の位置が分かりづらい。建物周囲には花や野菜を植え、近くを通行される方にも楽しんでもらっている。	
91 (36)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂の花瓶に季節の花を飾ったり、利用者に塗って切ってもらった季節の塗り絵を食堂や廊下の窓に貼っている。季節ごとに壁画を利用者と一緒に作成している。	
92	<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂横の居間も一人横になってくつろぐ事もできるし、気の合った利用者同士が腰掛けて話すこともできる。	
93 (37)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人が愛着のある物や使い慣れた枕などを持ってきてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	
94	<b>○換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿温度計を食堂にかけ、温度調整に注意して、また毎朝掃除をするときには出入り口を開放し換気している。	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
95	<b>○身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	建物内部はバリアフリーとなっている。また居室、食堂、廊下などには手すりがつけてあり、安全に生活が送れるようになっている。	
96	<b>○わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を防ぐ為に、部屋の入り口に大きく名前を書いたり、リハビリパンツの前後を分かりやすいように表示したりしている。	
97	<b>○建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲に野菜を植え、収穫時など楽しめるようにしている。また、散歩に出たときには、花が楽しめるようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない